地域医療支援病院
電話：0465-34-3175
FAX：0465-34-3179
電子メール：i-chiikiiryo@city.odawara.kanagawa.jp

小田原市立病院
Odawara Municipal Hospital

2025年 1月 31日 発行

地域医療連携だより

きずな



院内震災訓練を実施しました

令和６年９月28日(土)に「院内震災訓練」を実施しました。
本訓練は 「災害拠点病院」としての役割を担うべく、被災時の初動等を確認するため、当院の職員に加え、他院のDMAT隊員および小澤高等看護学院、おだわら看護専門学校、平塚看護大学校の看護学生・教員を含めた約130名が参加しました。

訓練では、前日の９月27日(金)午前11時に神奈川県内で最大震度６強の地震が発生したことを想定し、災害対策本部の設置から同本部の指示によるトリアージ本部と各トリアージエリアの開設および患者受け入れまでの流れを確認したほか、協力病院および各部署間における情報伝達訓練を行いました。

参加者が医療従事者役と患者役に分かれ、実際の被災時に近い状況で訓練が行われたことで、各部署における今後の課題をより詳しく分析することができました。

今回の訓練で得た経験を生かし、今後も「災害拠点病院」としての役割を果たせるよう、院内体制の構築、周辺医療機関等との円滑な連携体制の確立に努めて参ります。



（写真１）災害対策本部の様子


（写真２）トリアージ本部の様子


（写真３）トリアージエリア（赤）の様子


（写真４）各トリアージエリア（緑）の様子

＜各部署の主な役割について＞

■災害対策本部（写真１）
→院内および周辺地域の被災状況を把握し、傷病者の受入可否を判断するほか、院内全体の傷病者数および職員の管理を担当する。

■トリアージ本部（写真２）
→各トリアージエリアの指揮統制および災害対策本部からの情報を集約し、トリアージエリアに伝達を行う。

■トリアージエリア（写真３,４）
→緊急度や重症度に応じて傷病者を４段階（赤、黄、緑、黒）のエリアに分類し、各エリアにおいて治療や患者搬送の手配を行う。

災害拠点病院とは

厚労省の発令によって定められた「災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」のことです。当院は神奈川県西二次医療圏において、唯一の救命救急センター併設の「災害拠点病院」に指定されています。

災害対策本部設営BOX の紹介

災害発生時、当院は、病院の全機能を統括する「災害対策本部」を設置します。

災害は夜間・休日を問わず発生する可能性があることから、当院の院内会議室（災害対策本部の設営場所）には、「災害対策本部設営BOX」(＝災害対策本部を設営するための簡易セット)が常備されており、どの職員が対応しても、即座に「災害対策本部」が設置できるように備えています。



（写真）災害対策本部設営BOX

令和６年11月30日（土）

NCPR Pコース (新生児蘇生法 病院前コース) の講習会を開催しました

NCPR Pコース とは？

NCPR（新生児蘇生法）は新生児蘇生を標準化すべく、「新生児蘇生を担うスタッフが、全ての分娩において標準的な新生児蘇生法を実践し、新生児の予後を改善させる」ことを目的とした講習会です。

講習会は計５つのコースで構成されており、今回開催したPコース（ 病院前コース）は「医療施設外での出生を想定した新生児蘇生法の習得 」を目的としたコースです。

令和６年11月30日(土)に、県西地域で初となるNCPR Pコース(新生児蘇生法　病院前コース)をおだわら総合医療福祉会館で開催しました。

当日は豊橋市民病院から小児科の 杉浦 崇浩 先生を講師・インストラクターとしてお招きし、近隣消防を中心に県内から10名の救急救命士が参加しました。（当院スタッフからは 産婦人科 榎本 紀美子 医師、小児科 小郷 寛史 医師、吉田 裕美 助産師が講師・インストラクターを担当）

講習では、蘇生の準備から胸骨圧迫までの基本手技を学ぶほか、医療施設外での出生を想定したケースシナリオ実習を行うことで、新生児蘇生法への理解を深めました。

受講した救急救命士からは「新生児の救急搬送について理解が深まった。PA連携※1で消防隊が先着する可能性もあるため、今回学んだことを職場内に共有する。」「 受講してよかった。新生児に対する講義や訓練等に参加できる機会が少ないため、今後も同様の講習会が開催されれば積極的に参加しようと感じた。 」といった感想をいただきました。



（写真）ケースシナリオ実習の様子

本講習会につきましては、関係者間でのさらなる連携強化を図るとともに、新生児救命におけるスタッフ間の協働および実践教育の普及のために、今後とも定期的な開催を目指してまいります。

※1 消防車と救急車が連携して救急活動を行うこと